

要スル類ナルヲ以テ或ハ身謀団ト何等ノ關係アル  
モノニアラヌト思料シ馬車調査中  
四本目(二十八) 運輸状況(前報参照)

阪堺線 一五台

半野御線 X台

上町線 五台

發車時間ハ時刻ニヨリ多少ノ差生キ居レル又  
大休ハ分間毎ニ發車シ居レリ

一面右停留場等ニテ御多キノ方ハ混雜シテ居ル  
スカラ成ルベク本線ヲ利用シテ下サレトノ掲ホヲ爲シ  
乘客ノ緩和策ヲ講シ居レルヲ以テ常時多ク乗  
客多キ阪堺線ハ南海本線ヲ利用シ居レル關係  
上格別ナル混雜ヲ認メヌ

右及申(通)報候也

(了)

別紙 虚構ビヲ(寫)

(原文ノコ)

○ 乃々南海鉄道は斯く無理難題をせうの  
我々の電車之時刻間下さしめてを吾々の時声援  
者たる沿線一時住民様達 既に各新聞紙上に  
衆知の事とは思ひます 吾々としこの真情を訴へ書託  
をした、と思ひます。

吾々は生活の不安定を痛切に感しました。そして庄屋に  
對する反感。それを等々人類愛に燃ゆる現代に於  
てすら味わぬ。青春の期を徒らに経過し不安に墮  
さる人生の芽生期に於て既に斯の如き思想を極え附  
けられざるのです。そして吾々の真情を切のて愈々  
島に哀願し理解を得。人困らしき生活に對し  
と思ひました。けれども此の悲痛を叫び。此の慘  
る現実も会社当局は此の願慮すらも手へす。吾々  
の交渉員の熱弁も只々吾々をして悲しみの淵へ沈  
したに過ぎなかつたのです。